

IBARAKI ドリーム・パス事業について

1 趣旨・目的

自分の夢実現や地域課題の解決に向けた企画立案・実践活動をとおして、高校生等のアントレプレナーシップを育成する。

2 企画提案応募状況

【募集期間：令和2年6月8日（月）～8月7日（金）】

部門	項目	令和2年度			令和元年度		
		学校数	企画数	生徒数	学校数	企画数	生徒数
(1) 地域課題解決型		33	77	377	16	25	85
(2) 開発型		11	27	103			
合計		38	104	480	16	25	85

3 戦略チームの選定

8月20日に審査会を開催し、16チームを選定（詳細は、別添のとおり）

4 今後のスケジュール

STEP 1 「実践活動事前ガイダンス」 [9月13日（日） 県南生涯学習センター]

- ・大学生等と高校生等が戦略チームを編成し、企画案を再構築
- ・活動資金（チーム当り10万円）の提供を受け、実践活動

STEP 2 「企画ブラッシュアップ」 [11月8日（日） ザ・ヒロサワ・シティ会館分館]

- ・実践活動の進捗状況について発表や意見交換し、企画を練り直す。

STEP 3 「中間報告会」 [12月20日（日） 県南生涯学習センター]

STEP 4 「予選会」 [令和3年2月14日（日） 県南生涯学習センター]

- ・実践活動の内容を発表、質疑応答
- ・部門別「地域課題解決型」「開発型」に分けて審査し、最大8チーム選考

プレゼンテーション大会「IBARAKI ドリーム★パス AWARD」

[令和3年3月14日（日） 県南生涯学習センター]

- ・ファイナリスト（最大8チーム）による取組内容の成果を発表
- ・予選会で敗退したチームによるポスターセッション（展示は全チーム）
- ・企業や市町村行政機関等とのマッチングの実施

(参考) 昨年度入賞チーム

結果	企画名・学校・学年	内容	副賞
最優秀賞	あなたとしゃべりたいα (※1) 並木中等教育学校3年	まばたきの回数によりメッセージを伝えるアプリの開発	30万円
第2位	いきいき夢学校！ (※2) 土浦日本大学中等教育学校6年	廃校を利活用し、高齢者の地域交流スペースとなる「学(楽)校」の開校	20万円
第3位	自律型走行ロボットの開発(※1) 並木中等教育学校3年	センサーで追尾する、荷物運搬用自律型の走行ロボットを開発	10万円

(※1) 支援企業による技術支援等を予定（新型コロナウイルス感染症の影響で延期中）精度を上げるため、試行錯誤しながら改良を加えている。

(※2) 桜川市で高校生ボランティアを立ち上げ、2回目の開校を目指し活動中。

■令和2年度 IBARAKI ドリーム・パス事業 企画一覧

1 地域課題解決型(8チーム)

No	学校名	学年	企画名	概要
1	日立第一高等学校	1	未来の作家発掘プロジェクト	作家や出版関係の仕事を知り、中高生の将来選択の幅を広げるとともに茨城発の若い世代の作家の誕生を図るため、出版や編集関係の方の講義を聞いたり、自分たちの作品を評価してもらう機会を作る。
2	日立第一高等学校	1	日立市を「カラミ煉瓦の町」にするためのビジネスプラン	カラミ煉瓦(※)の魅力を日立市の人たちに伝えるために、カラミ煉瓦を使った門柱や塀を作る。そのことにより、地元に対する意識が高まり、愛郷心が生まれ、日立市に活気が生まれる。 (※)日立鉱山から銅を製錬する際に出る、「カラミ」という廃棄物をリサイクルしたもの。
3	太田第一高等学校	1	クッキーでラッキー！ 太田のShrine spirit	常陸太田市の歴史ある神社を身近に感じてもらうため、茨城県の特産物をフレーバーで表現したフォーチュンクッキー（おみくじ入りクッキー）を神社ごとに作り、販売する。
4	大洗高等学校	2	高校生！コミュニティの壁をぶっ壊せ!!	大洗町は働く外国人が増加傾向にあるが、人口減少は進んでいる。この2つの課題を解決するために、外国人と日本人の交流促進を目指して、大洗高校生が橋渡しをする。
5	土浦第一高等学校	1	ペットだって逃げたい！	災害時にペットとともに避難できるよう、ペット避難用の防災バックを製作する。また、ペット同伴の避難所を設置できるような仕組みをつくる。
6	土浦工業高等学校	2	140年続く伝統漁の危機を救え!!	担い手不足漁業をサステナブル漁業へ 水郷の風物「帆引き船」を使った漁業は、動力を使うようになり「よこ引き船漁」と形を変える。現在、この漁業が存続の危機にあるため、工業高校らしい提案をし、持続可能な漁業へと変える。
7	取手第二高等学校	2	レインボーマガジン	セクシュアリティなどの知識の一般化、多様な生き方が当たり前になることなどを目指して、フリーマガジンを作成し、県内の中学校や高校などに配布することで、正しい知識を広め、住みやすい社会にしていく。
8	牛久高等学校	2	日本遺産「牛久シャトー」に賑わいを ～地産地消のメニュー～	牛久シャトーの集客に繋げるために、地産地消のレストランメニューやお土産ものを開発し、商品化するとともに、牛久市産の農産物を活用し生産者を応援する。

2 開発型(8チーム)

No	学校名	学年	企画名	概要
1	下館第一高等学校 附属中学校	中1	安心・安全な植物の乾燥剤を作ろう！	茨城県では、乾燥剤の誤飲事故が155件（高齢者）あることから、子どもや高齢者でも安心して使うことができる、身近な植物を活用した乾燥剤を開発する。また、イベント等で地域の方と乾燥剤を作ることで、地域の人と交流を図ることも目的としている。
2	水戸工業高等学校	3	農業経営支援システムについての調査研究 ―地域活性化を目指して―	農業界の人手不足や生産者の高齢化、農家の負担軽減、農業人口の確保などの実現を目指し、農業経営の支援システムの機能を確認する。このシステムを開発することにより、地域活性化にもつながることを想定している。
3	勝田高等学校	2	ツルっと流して大作戦！	汚水配管が詰まってしまう原因のひとつに、汗拭きシートやお尻ふきシートをトイレに流すことがある。トイレの詰まりを軽減するために、「サラッと拭けてツルっと流せる汗拭きシート」を開発する。
4	竹園高等学校	1	きみも「薬」を作る未来を ～高校生によるバニリン酸イソプロピルの 全合成への挑戦～	安価な材料を用いて「薬」を合成し、薬品製造に関わるコストの削減により薬価を下げることを目指し、高校化学の教科書に掲載されていない「薬」の全合成に挑戦する。
5	つくば工科高等学校	3	収穫支援ロボット開発	高齢化する農家の問題解決や人材不足の解消、生産性の向上につながることを目的に、自律走行型搬送ロボットや収穫ロボットを製作することで、自動で搬送収穫するシステムを開発し、スマート農業の魅力を発信する。
6	並木中等教育学校	中3	AIチャットボットの開発 --テレワークに最強な形でAIを活用する--	「withコロナ」において、テレワークが推進されている現状を踏まえ、安全性や効率性を満たしたプロジェクト管理をできるようなツールを開発する。この開発により、新しい生活スタイルに対応することで、社会貢献になることも目指す。
7	並木中等教育学校	2	片手デバイスの開発	パソコン操作に不慣れな人や作業をしながらパソコン操作をする人が、片手で握ることができる大きさで、且つ楽に操作できるようなデバイスを開発する。
8	清真学園高等学校	2	IT化計画 Hub Educating Application (HEA)～へア～	学校で活用している教育向けアプリ（Classi, ロイロノート, GoogleClassroom等）を便利に使えるようにするために、アプリを繋ぎ、ハブとなるアプリを開発する。